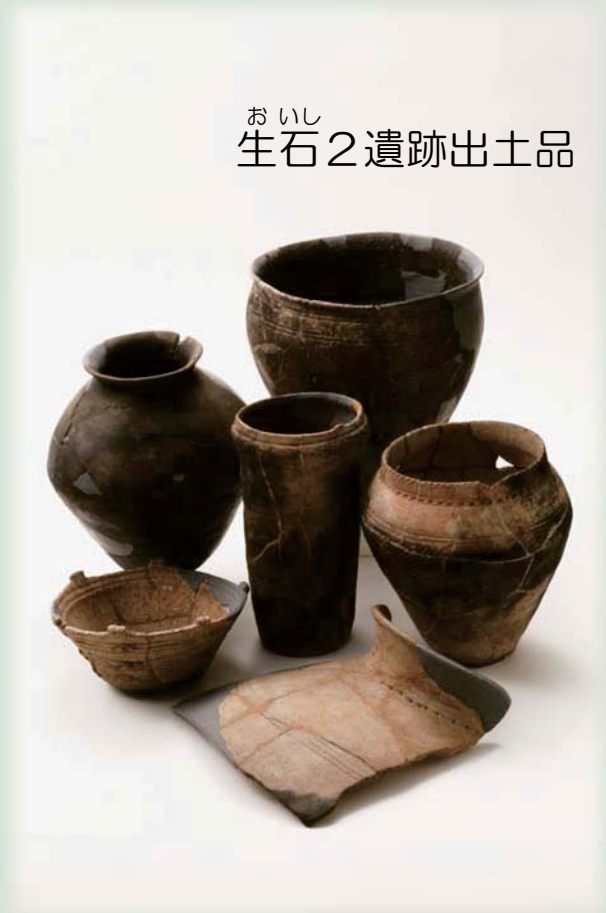


(財) 山形県埋蔵文化財センター企画展

弥生時代のくらし



ひゃくがりだ
百刈田遺跡出土品



おいし
生石2遺跡出土品

開期：平成24年1月16日(月)
～2月17日(金)

会場：東紅苑1階ホール

「現在・過去から未来が見える」
財団法人山形県埋蔵文化財センターは、遺跡の発掘調査や研究により、過去の記憶を呼び起こし、調査説明会や体験学習を通して、先人の知恵を未来に伝えています。
東紅苑での企画展示も2回目となりました。今回は「弥生時代」にスポットを当て、出土品を数多く展示します。この展示を通して、ふるさとの遺跡が身近にあることを知ってもらえたらと思います。

おいし 生石2遺跡（酒田市）

生石2遺跡は弥生時代前期の遺跡で、稲作を裏付ける遺物が多数見つかっています。また、稲作とともに西日本から伝わった遠賀川系おんががわの土器、もともと山形で使われていた亀ヶ岡系かめがおかの土器、そしてこゆうごうれらが融合した折衷系せっちゅうの土器がまとまって出土したことから、弥生文化が受け入れられていく時期の遺跡として注目され、昨年末には弥生土器78点が県の重要文化財に指定されました。



はち鉢



かめ甕



つぼ壺



ふた蓋

ひゃくがりだ 百刈田遺跡（南陽市）

百刈田遺跡は、弥生時代中期の遺跡です。遺跡は、お墓を含む葬送そうそうの場と考えられ、この時期の特徴を持つ土器が多量に出土しました。県内では弥生時代の遺跡が少なく、貴重な資料といえます。



壺



たかつき高杯



甕



鉢